

尼崎市ユース相談支援事業 事例

*個人の特定を避けるため、複数の事例を組み合わせています

・不登校になった後、家族とも会話ができなくなった10代

〈相談経緯〉

中学校で登校できなくなり、ご家族とも話せず、自室から出てこなくなっておられました。ご家族からの相談を受け、本事業の利用申請を受付いたしました。

〈支援経過〉

ご本人の意思確認は難しいためまずはご家族との面談から始めました。ご家族がドア越しや、置手紙などでコミュニケーションをはかられる中、ご本人の行動の意味を一緒に考え、その「メッセージ」に対してご家族とどのような行動を返していくのかを一緒に考えてきました。保護者向けのセミナーや家族会なども活用いただき、ご本人のメッセージを「受け取っているよ」ということをお伝えしてもらいながら、ご家族だけで悩むのではなく、相談員も一緒に悩みながら、ご本人のひとつひとつの変化を一緒に受け止めてきました。そんなかわり続ける中で、ご本人が自室から出て自身の気持ちを表現できたり、今まで言えていなかった気持ちを伝えてくれたりされるようになりました。

〈現在の状況〉

ご本人の気持ちを中心に置きながら、ご家族とご本人の関係づくり、外の社会とのつながりの機会の支援を継続しています。